

平成29年度
奈良県道徳教育パワーアップ研究協議会

**「考え、議論する道徳」を実現する
道徳科の指導と評価**

平成29年12月27日(水)

文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官 浅見 哲也

**「考え、議論する道徳」を実現する
道徳科の指導と評価**

内容

- ・道徳科の目標の理解
- ・新学習指導要領の趣旨
 - ・主体的・対話的で深い学び
- ・道徳科の評価
 - ・道徳的行為が実践できる子どもの育成
- ・道徳科の授業で大切にしたいこと

道徳科の目標の理解

道徳教育と道徳科の関係

道徳教育は、特別の教科である道徳(以下「道徳科」という。)を**要**として学校の教育活動**全体**を通じて行うもの…

「小・中学校学習指導要領 第1章 総則」

新 **道徳教育の目標**

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共に**よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする。**

新 小・中学校学習指導要領「第1章総則」の第1の2(2)

新 **道徳科の目標**

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、**よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己の(人間としての)生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。**

「新 小・中学校学習指導要領 第3章 特別の教科 道徳」

■ 道德性の諸様相(学校教育における捉え方)

道德的判断力
それぞれの場面で善悪を判断する能力

道德的心情
道德的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情

道德的实践意欲
道德的判断力や道德的心情を基盤とし道德的価値を実現しようとする意志の働き

道德的態度
道德的判断力や道德的心情に裏付けられた具体的な道德的行為への身構え

道德的な判断力、心情、实践意欲と態度を育てる

道德的判断力
道德的心情
道德的实践意欲
道德的態度

道德性を構成する諸様相

- 一人一人の児童(生徒)が道德的価値を自覚し、自己の(人間としての)生き方についての考えを深め、日常生活や今後出会うであろう様々な場面、状況で、道德的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような**内面的資質**

新学習指導要領の趣旨

学習指導要領改訂に向けたこれまでの動き

27. 8. 26 教育課程企画特別部会における論点整理について(報告)

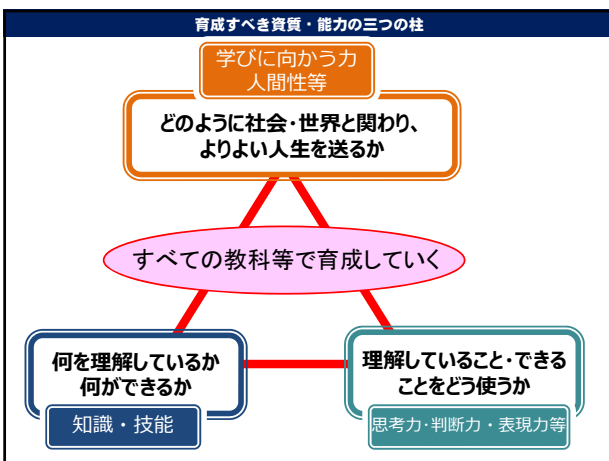
- 2030年の社会と子ども達の未来
- 新しい学習指導要領等が目指す姿 等

28. 8. 26 次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ

28. 12. 21 学習指導要領の改善及び中央教育審議会答申に必要な方策等についての答申

- 子供たちに求められる資質・能力と教育課程の課題 等

29. 3. 31 次期学習指導要領が文部科学省告示として公示



新 道德科の目標

第1章総則の第1の2の(2)に示す道德教育の目標に基づき、**よりよく生きるための基盤となる道德性を養うため、道德的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己の(人間としての)生き方についての考えを深める学習を通して、道德的な判断力、心情、实践意欲と態度を育てる。**

「新 小・中学校学習指導要領 第3章 **学習活動に着目**

深い学びの鍵となる「見方・考え方」

学習指導要領 第1章 総則 第3の1(1)

(1) …特に、各教科等において身に付けた知識及び技能を活用したり、思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、人間性等を發揮させたりして、学習の対象となる物事を捉え思考することにより、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方(以下「見方・考え方」という。)…

深い学びの鍵となる「見方・考え方」

道徳科の目標の学習活動と同じであると言える

多様な事象を、道徳的諸価値の理解を基に自己の関わりで(広い視野から)多面的・多角的に捉え、自己の(人間としての)生き方について考えること

中央教育審議会(答申)28. 12. 21

主体的・対話的で深い学びの実現

道徳科の「アクティブ・ラーニング」

答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う「考え、議論する道徳」の実現

主体的・対話的で深い学び

考え、議論する道徳

「主体的な学び」の視点

問題意識を持つ



自分自身との関わりで考える
自らを振り返る 等

考え

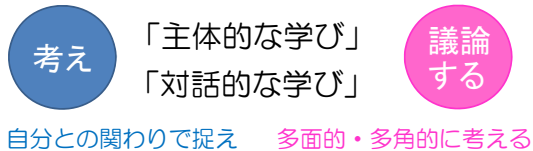
「対話的な学び」の視点

協働し、対話する



多面的・多角的に考える
学級経営の充実を図る 等

議論する



教師の明確な意図により「深い学び」へと向かう。

様々な場面、状況において、道徳的価値を実現するための問題状況を把握し、適切な行為を主体的に選択し、実践できるような資質・能力を育てる学習とする。



深い学びの視点

見方・考え方

多様な事象を、道徳的諸価値の理解を基に自己の関わりで(広い視野から)多面的・多角的に捉え、自己の(人間としての)生き方について考えること

指導の留意点

- × 主題やねらいの設定が不十分な単なる生活体験の話合いの指導
- × 読み物教材の登場人物の心情理解のみに終始する指導
- × 望ましいと分かっていることを言わせたり書かせたりすることに終始する指導

質の高い多様な指導方法の例

・読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習

教材の登場人物の判断と心情を自分との関わりにおいて多面的・多角的に考えることを通じ、道徳的価値の理解を深めること

・問題解決的な学習

児童生徒の考えの根拠を問う発問や、問題場面を自分に当てはめて考えてみることを促す発問などを通じて、問題場面における道徳的価値の意味を考えさせること

・道徳的行為に関する体験的な学習

疑似体験的な活動(役割演技など)を通して、実際の問題場面を実感を伴って理解することで、様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養うこと

授業には、多様な学習指導過程、指導方法の工夫がある

道徳科における質の高い多様な指導方法

これらは多様な指導方法の一例であり、それぞれが独立した指導の「型」を示しているわけではない。

道徳科における具体的な学習プロセスは限りなく存在し得るもの

深い学び

読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習

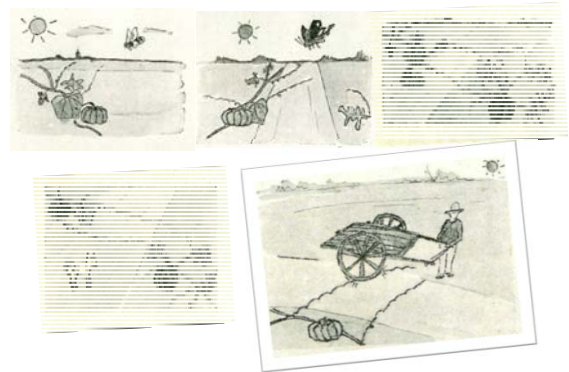
登場人物の気持ちに共感する。



登場人物に共感して、**自分の体験から**気持ちを考える。

自分との関わりで考える

小学校 道徳の指導資料 第3集(第1学年)文部省 昭和41年(1966)



道徳授業の実際(例)

発問の意図



子供たち自身が、わがママを注意されたときの気持ちを考えさせたい。



みつばちやちょうに注意されたとき、かぼちゃはどんな気持ちかな？

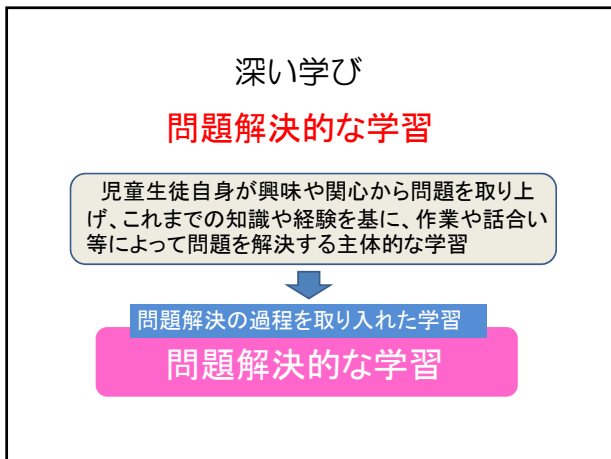


わがママを注意されたときは、どんな気持ちだったかな？

自分との関わりで考えさせるための発問例


自分だったら、どうしますか？

この発問の仕方の長所と短所




問題解決的な学習例 **社会科**

問題の発見、設定、特定	米作りが盛んな都道府県を調べよう 社会的事象
解決に向けた追究、探求 (調べる、確かめる)	統計資料、インターネット、取材友達と話し合う
問題の解決 (まとめる)	資料などに基づく一定のまとめ





問題解決的な学習例 **理科**

問題の発見、設定、特定	かげの長さはどのように変わるのだろうか 自然現象
解決に向けた追究、探求 (調べる、確かめる)	観察、実験など友達と話し合う
問題の解決 (まとめる)	観察結果、実験結果に基づく一定のまとめ



問題解決的な学習例 **あなたにとって**

問題の発見、設定、特定	本当の親切とはどのようなものだろう 道徳的価値に関わる事象
解決に向けた追究、探求 (調べる、確かめる)	自分の体験やそれに伴う感じ方や考え方を基に自分なりの考えをもち、友達との話し合いを通して道徳的価値のよさや難しさを確かめる
問題の解決 (まとめる)	本当の親切とはこのようなものだ(一般的なまとめ) わたしにとっては・・・

小学校学習指導要領解説
特別の教科 道徳 編

道徳科における問題解決的な学習とは、ねらいとする道徳的価値について自己を見つめ、これからの生き方に生かしていくことを見通しながら、実現するための問題を見つけ、どうしてそのような問題が生まれるのかを調べたり、他者の考え方や感じ方を確かめたりと物事を多面的・多角的に考えながら課題解決に向けて話し合うこと。

中学校学習指導要領解説
特別の教科 道徳 編

道徳科における問題解決的な学習とは、生徒一人一人が生きる上で出会う様々な道徳上の問題や課題を多面的・多角的に考え、主体的に判断し実行し、よりよく生きていくための資質・能力を養う学習である。

小学校学習指導要領解説

特別の教科 道徳 編

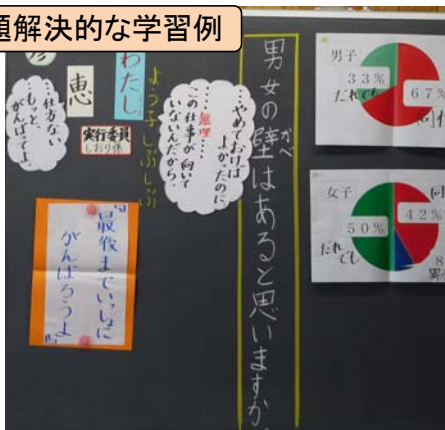
道徳科における問題とは道徳的価値に根差した問題であり、単なる日常生活の諸事情とは異なる。

問題解決的な学習の道徳的な問題例

- ①道徳的価値が実現されていないことに起因する問題
- ②道徳的諸価値について理解が不十分又は誤解していることから生じる問題
- ③道徳的諸価値のことは理解しているが、それを実現しようとする自分とそうでない自分との葛藤から生じる問題
- ④複数の道徳的価値の間の対立から生じる問題

28.7.22「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について(報告)より

問題解決的な学習例



深い学び

道徳的行為に関する体験的な学習

役割演技は、登場人物の気持ちや考えを感じ取るだけではない。



頭で考えたり、口で言うのは簡単だけれど、実際に行動に移すことが、どれだけ大変なのかを実感できる疑似体験もできる。

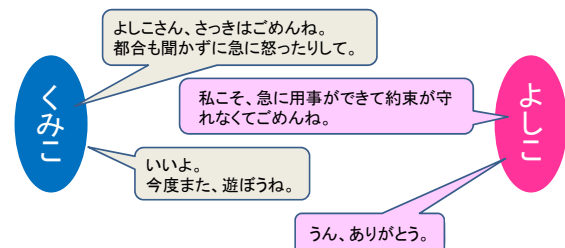
道徳的行為に関する体験的な学習

- 実際に挨拶や丁寧な言葉遣いなど具体的な道徳的行為をして、礼儀のよさや作法の難しさなどを考える
- 相手に思いやりのある言葉を掛けたり、手助けをして親切についての考えを深めたりする



道徳的行為に関する体験的な学習例

役割演技により二人の関係を修復する疑似体験



学習指導過程や指導方法の工夫の配慮事項

児童(生徒)の発達の段階や特性等を考慮し、**指導のねらいに即して**、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等を**適切に取り入れる**など、指導方法を工夫すること。その際、それらの活動を通じて学んだ内容の**意義などについて考える**ことができるようにすること。また、特別活動等における多様な実践活動や体験活動も道徳科の授業に生かすようにすること。

小・中学校学習指導要領解説 第3章「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の2

考え、議論する道徳

考える
主体的に
自分との関わりで

多様な感じ方、
考え方と出合い
交流する

自分の感じ方、考え方を
明確にする

自分の感じ方、考え方を
より明確にする

主体的な学び

児童生徒が
真剣に考えること



対話的な学び

児童生徒が
共に語り合うこと



深い学び

教師が指導の
明確な意図をもつこと



道徳科の評価

ある道徳の授業での1コマです。

だげとなあ…

よし子は、どんな気持ちでバスに乗る列に並んでいたのでしょうか？

えっ、そうなの？

並んでいなかったんだから、先にバスに乗ろうとして何がいけないんだ！

てつやくん、そんなこと言ったら、道徳の成績が下がるよ。お母さんが、今度、道徳も評価するって言っていたよ！

てつや

道徳の時間はよいこでいなくっちゃ！

道徳教育における評価の意義

教師

児童生徒

教師が指導の目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むための資料となるもの

自らの成長を実感し意欲の向上につなげていくもの

指導に生かされ、児童生徒の成長につながる評価でなくてはならない。

指導と評価の一体化

評価の意義

児童(生徒)のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること。また、各教科等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすること。

学習指導要領「第1章 総則」の「第3 教育課程の実施と学習評価」の2の(1)

評価の意義

創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、組織的かつ計画的な取組を推進するとともに、学年や学校段階を越えて児童(生徒)の学習の成果が円滑に接続されるように工夫すること。

学習指導要領「第1章 総則」の「第3 教育課程の実施と学習評価」の2の(2)

道徳科の評価の基本的態度

道徳科は、道徳教育の目標に基づき、各教科、(外国語活動)、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によって道徳性を養うことがねらいである。

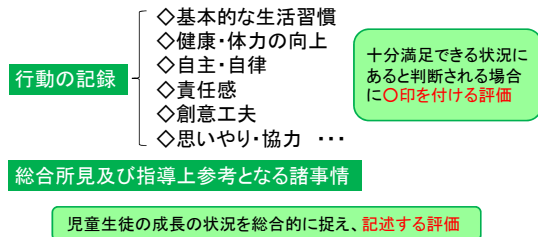
道徳性とは、人間としてよりよく生きようとする人格の特性であり道徳的判断力、道徳的心情、道徳的实践意欲及び態度を諸様相とする内面的資質である。このような道徳性が養われたか否かは、容易に判断できるものではない。

しかし、道徳性を養うことを学習活動として行う道徳科の指導では、その学習状況や成長の様子を適切に把握し、評価することが求められる。

第5章 第2節 道徳科における児童(生徒)の学習状況及び成長の様子についての評価

これまで行ってきた道徳教育の評価

評価の公的な文書である「指導要録」の場合



教育活動全体で見られた
児童生徒の道徳的な行為の評価

新たに加わる道徳科の評価

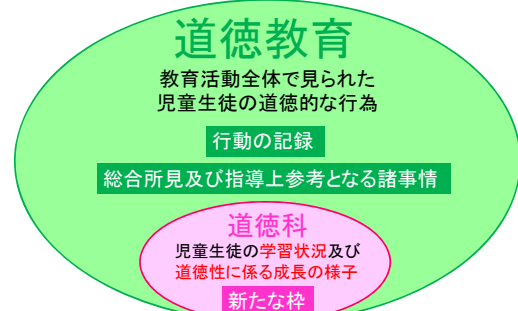
道徳科の授業で見られた児童生徒の評価

児童(生徒)の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。

「第3章 特別の教科 道徳」の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の4

道徳教育と道徳科の評価

評価の公的な文書である「指導要録」の場合



一面的な見方から多面的・多角的な見方へと
発展させているかどうか

- ・道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしている
- ・自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしている
- ・複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしている

など

道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で
深めているかどうか

- ・読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている
- ・現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直していることがうかがえる部分に着目している
- ・道徳的な問題に対して自己の取り得る行動と他者と議論する中で、道徳的価値の理解を更に深めている
- ・道徳的価値の実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしている

など

道徳科における評価

学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握

第1回 	第2回 	第3回 	第4回
第5回 	第6回 	第7回 	第8回
第9回 	第10回 	第11回 	第12回

年間や学期(例:1学期12回の授業)
個々の内容項目ごとではなく、**大きくりなまとまり**を踏まえた評価

道徳科における評価

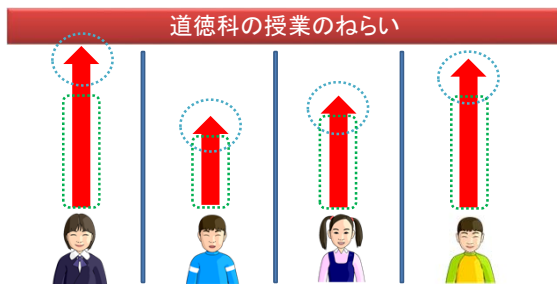
学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握

第1回 	第2回 	第3回 	第4回
第5回 	第6回 	第7回 	第8回
第9回 	第10回 	第11回 	第12回

個人の目標に向けた学習状況ごとに横並びにして、
突出したところをよさと認める

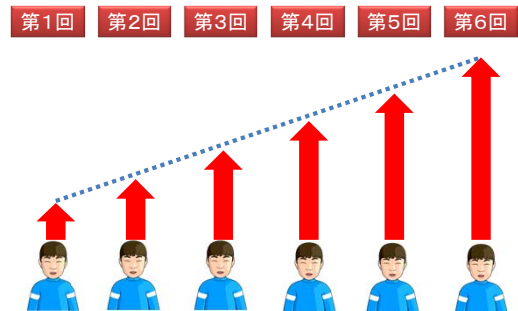
道徳科における評価

成長を受け止めて認め、励ます**個人内評価**



道徳科における評価

学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握



学習状況を時間的に縦に並べて、**進歩の状況を認める**

評価のための具体的な工夫例

- ・児童生徒の学習の過程や成果などの記録を計画的にファイルに蓄積したもの
- ・児童生徒が道徳性を養っていく過程での児童生徒自身のエピソードを累積したもの
- ・作文やレポート、スピーチやプレゼンテーションなど具体的な学習の過程
- ・児童生徒が行う自己評価や相互評価 等

組織的、計画的な評価の推進例

- ・学年ごとに評価のために集める資料や評価方法等を明確にしておく
- ・評価結果について教師間で検討し評価の視点などについて共通理解を図ること
- ・評価に関する実践事例を蓄積し共有すること

妥当性

信頼性

自信

負担感軽減

これから特に配慮すべきこと

- ・授業中の発言がほとんどない。
- ・文章表現が得意ではない。
- ・表情にも表れにくい。

・授業でどのように見取っていくのかを校内で検討しておくことが必要

・授業者は、意図的に観察したり、指名したりして、評価できる根拠を集めることが必要

これから特に配慮すべきこと

そして、何よりも・・・

そのような児童生徒の評価ができる道徳科の学習が「考え、議論する道徳」でもある。

・道徳的諸価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己の(人間としての)生き方についての考えを深める学習

授業に対する評価

道徳科の学習指導過程や指導方法に関する評価の観点の例

ア 学習指導過程は、道徳科の特質を生かし、道徳的価値の理解を基に自己を見つめ、自己の(人間としての)生き方について考えを深められるよう適切に構成されていたか。また、指導の手立てはねらいに即した適切なものとなっていたか。

イ 発問は、児童(生徒)が(広い視野から)多面的・多角的に考えることができる問い、道徳的価値を自分のこととして捉えることができる問いなど、指導の意図に基づいて的確になされていたか。

ウ 児童(生徒)の発言を傾聴して受け止め、発問に対する児童の発言などの反応を、適切に指導に生かしていたか。

エ 自分自身との関わりで、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考えさせるための、教材や教具の活用は適切であったか。

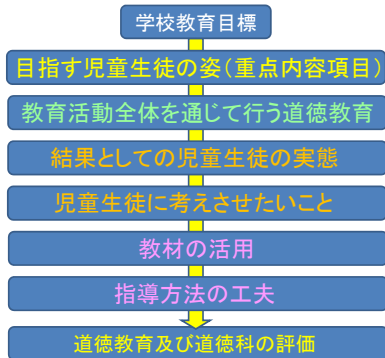
オ ねらいとする道徳的価値についての理解を深めるための指導方法は、児童(生徒)の実態や発達段階にふさわしいものであったか。

カ 特に配慮を要する児童(生徒)に適切に対応していたか。

第5章 道徳科の評価 第3節 道徳科の授業に対する評価

道徳的行為が実践できる
子どもの育成

道徳的行為が実践できる子どもの育成



学校教育目標

あかるく なかよく たくましく

これが本校の学校教育目標です。この目標に基づいて、子どもをしっかり育てていきましょう。



校長先生



道徳教育推進教師

確かにそうんだけど、もう少し具体的にならないのかなあ…。

学校教育目標の具現化



学校教育目標の具現化を図るためにも、本校が全教育活動を通して目指す子どもの姿をより具体的に設定するといいかもしれない。

子どもの実態と、保護者や地域の人々の願い、教職員の願い等を踏まえて、具体的な子どもの姿を設定しましょう。



目指す子ども像の設定

あかるく

◆笑顔であいさつができ、約束やきまりが守れる子

なかよく

◆思いやりの気持ちをもって、みんなと仲良くできる子

たくましく

◆夢や目標に向かって、粘り強く努力できる子

校長の方針

- ◆笑顔であいさつができ、約束やきまりが守れる子
- ◆思いやりの心をもって、みんなと仲良くできる子
- ◆夢や目標に向かって、粘り強く努力できる子



学校教育目標の具現化を図るためにも、全ての教育活動を、この目指す子ども像にリンクさせて取り組んでいきましょう！



これが校長先生の方針ですね。

教育活動全体を通じて行う道徳教育

◆笑顔であいさつができ、約束やきまりが守れる子

◆思いやりの気持ちをもって、みんなと仲良くできる子

◆夢や目標に向かって、粘り強く努力できる子

これらの子ども像に関連の深い内容項目を洗い出してみましょう。



これらの内容項目は必ずすべての学期に一度は授業を行うことにしましょう。

道徳科の授業以外でも、この内容項目に関わりのある教科や行事などもあるので、各学年ごとに洗い出してみましょう。

指導計画の作成

道徳教育全体計画の別葉の作成

内容項目に関わる教育活動が一目でわかる計画を作成して、よく目にするところに掲示しておく。道徳科の授業と他の教育活動との関連を図りながら効果的に子ども達の道徳性を養うことができそうね。

道徳科の年間指導計画の見直し

一定期間を設けて重点的に指導するのも効果があるかもしれない。年間指導計画の主題配列も工夫しましょう。



全体計画の別葉作成の例

◆笑顔であいさつができ、約束やきまりが守れる子

重点内容項目 (B礼儀 C規則の尊重)

【第4学年の例】

内容項目	国語	算数	...	学校行事	...
...			
礼儀	お願いやお礼の手紙を書こう			入学式(4月) 卒業式(3月)	
...			
規則の尊重	図書館へ行こう	折れ線グラフと数角の大きさ		運動会(5月) 校外学習(9月)	
...			

年間指導計画の内容項目の配当時間数の例

◆笑顔であいさつができ、約束やきまりが守れる子

重点内容項目 (B礼儀 C規則の尊重)

視点	内容項目	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
A	真理の探究	1	1	1	1	1	1
B	親切、思いやり	3	3	3	2	2	2
	感謝	2	1	1	1	1	2
	礼儀	3	2	3	2	3	2
B	友情、信頼	2	2	1	2	1	2
	相互理解、寛容	1	1	1	2	2	2
C	規則の尊重	3	3	3	3	3	3
合計		34	35	35	35	35	35

年間指導計画の主題配列の工夫の例

◆笑顔であいさつができ、約束やきまりが守れる子

重点内容項目 (B礼儀 C規則の尊重)

学期	月	週	回	主題名	内容項目	教材名 (教科書以外の出典)	備考
1 学期	4 月	1	1	1日の始まり	B 礼儀	〇〇〇〇	
		2	2	安全な生活	A 節度、節制	〇〇〇〇	
		3	3	きまりは何のために	C 規則の尊重	〇〇〇〇	
	5 月	1	4	権利と義務	C 規則の尊重	〇〇〇〇 (〇県 郷土資料集)	
		2	5	自他の生命の尊重	D 生命の尊さ	〇〇〇〇 (「私たちの道徳」文科省)	
		3	6	まごころの形	B 礼儀	〇〇〇〇	
		4	7	長所と短所	A 個性の伸長	〇〇〇〇	

年間指導計画作成上の配慮事項

各学校においては、道徳教育の全体計画に基づき、各教科、(外国語活動)、総合的な学習の時間及び特別活動との関連を考慮しながら、道徳科の年間指導計画を作成するものとする。なお、作成に当たっては、第2に示す各学年段階の内容項目について、相当する各学年において全て取り上げることとする。その際、児童(生徒)や学校の実態に応じ、2学年間(3学年間)を見通した重点的な指導や内容項目間の関連を密にした指導、一つの内容項目を複数の時間で扱う指導を取り入れるなどの工夫を行うものとする。

「第3章 特別の教科 道徳」の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の1

年間指導計画の見直し例

◆笑顔であいさつができ、約束やきまりが守れる子

重点内容項目 (B礼儀 C規則の尊重)

【全学年】

目指す子ども像がこのような内容であれば、道徳科の授業を要として、特に1学期に重点的に取り組むことにしましょう。

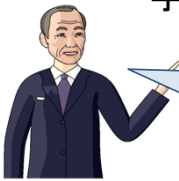


先生方も、1学期は、「礼儀」や「規則の尊重」を意識して、指導に当たってくださいね。


私の全校朝会の講話も、あいさつやきまりの大切さについて話をすることにしよう。



学校評価の活用



目指す子ども像について、子どもの変容を見取るためにも、質問項目を連動させて、定期的に保護者や職員にとることしよう。



学校運営協議会制度を活用して、学校の道徳教育の成果などを報告し、地域の人からの意見も取り入れていこう。また、学校評価を生かし、道徳教育の改善を図っていこう。

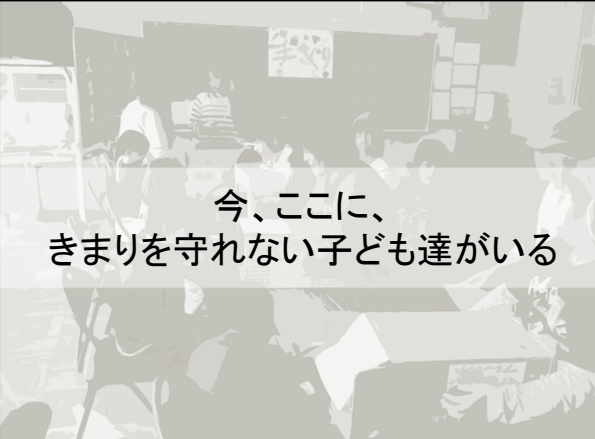
家庭や地域社会との連携

目指す子ども像の重点	重点内容項目	家庭や地域社会との連携
1学期	笑顔であいさつができ、約束やきまりが守れる子 B礼儀 C規則の尊重	子どもと地域のあいさつ運動 交通安全指導 等
2学期	思いやりの気持ちをもって、みんなと仲良くできる子 B親切、思いやり Cよりよい学校生活、集団生活の充実	地域の敬老会への参加 福祉施設訪問 道徳授業公開 等
3学期	夢や目標に向かって、粘り強く努力できる子 A希望と勇気、努力と強い意志 Dよりよく生きる喜び	職業体験 夢を語る発表会 等

積極的な情報発信による、「社会に開かれた教育課程」の実現

次年度1学期のある学級では・・・

1学期は特に「**笑顔であいさつができ、約束やきまりが守れる子**」の育成を重点的に取り組み、きまりを守ることについては、学級のきまりをみんなでつくったり、交通安全の指導なども行ってきてはいたのですが・・・

今、ここに、
きまりを守れない子ども達がいる

児童の実態把握

5月の社会科見学の様子

- しゃべったり、ふざけたりした(12人)
- 時間を守って行動できなかった(3人)
- 不要な物を持っていった(2人)
- けんかをした(2人)

事前アンケート「きまりがあっても守れないのはどうしてか？」

- 自分の好きなことだけをやりたい。
- めんどくさい。
- きまりを忘れてしまって、きまりが守れない。
- きまりなんかなくていいと思っている。

子ども達の問題点

- ・きまりがあることに気が付かない
- ・きまりの必要性が感じられない

第4学年 規則の尊重
何がいけないの？ きまりは何であるの？

ねらい

きまりの意義を理解し、みんなのことやまわりの状況を考えて、きまりを守ろうとする判断力を高める。

教材名「雨のバス停留所で」

出典「わたしたちの道徳」
小学校3・4年(文部科学省)

雨のバス停留所で

出典「わたしたちの道徳」小学校3・4年(文部科学省)

雨降りの日に母親と外出した「よし子」。停留所から少し離れたのき下で雨宿りをしてバスを待つ人々。バスが来ると、「よし子」は停留所に近づき、先にバスに乗り込もうとする。しかし、母親に引き戻され、乗客の後ろに並んでバスに乗り込む。バスの中で母親の横顔を見て、自分の行為を振り返る。

導入

おしゃべりをする事
休み時間に外で遊ぶこと

これはいけないことですか？

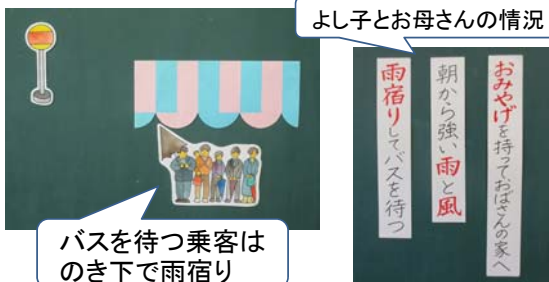
学習課題の提示

何がいけないの？
きまりは何であるの？



雨のバス停留所で

出典:「わたしたちの道徳」小学校3・4年

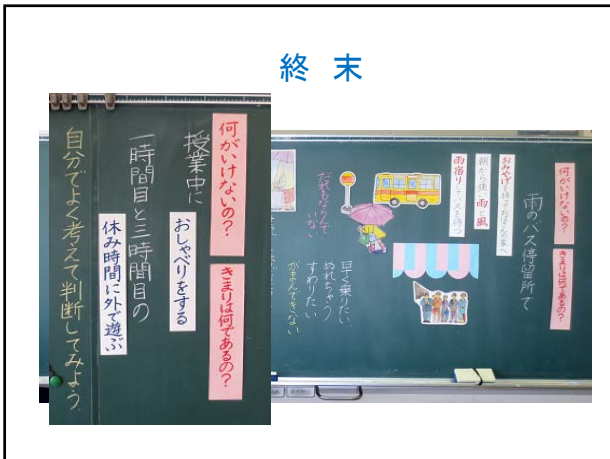


よし子は、どんな気持ちで
バス停に駆け寄ったのか？

早く、バスに乗って座りたい。
おみやげがぬれちゃうよ。
お母さんの分も席をとろう。



終末



指導は、子供が自らのよさや成長を実感できるように工夫するもの

評価は、子供の成長を願って行われるもの

子供にとって
心の成長につながる
いちばんの評価は…

信頼できる先生に認められること

道徳科の授業は...
未来への投資から教育課題への一手へ

量的確保と質的転換

教師が道徳科の授業を楽しみながら...

ご清聴ありがとうございました。